

令和4年度 指定管理者年度総合評価表
(令和4年4月～令和5年3月実施分)

作成日	令和 5 年 6 月 5 日
-----	----------------

■指定管理者概要

施設名	八戸市身体障害者更生館	
所在地	八戸市類家四丁目3番1号	
施設概要	在宅の心身障がい者に対し、在宅福祉サービスの援助、社会的生活力を高めるための支援、ピアカウンセリング、相談事業及び福祉制度の情報提供等を総合的に行うことを目的とした施設。	
指定管理者	名称	社会福祉法人 やすらぎ会
	代表者	理事長 齋藤 鈴子
	所在地	八戸市大字松館字田ノ平 19 番地 1
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日	
指定管理者の業務	・施設の設定管理の維持や使用許可を行うこと。 ・障がいに関する各種相談や障がいの機能回復訓練を行うこと。 ・館内の集会室を障がい者の集会等の用に供すること。 ・障がい者の福祉増進に寄与する事業の企画及び実施すること。	
市所管課 (問合せ先)	福祉部 障がい福祉課 障がい福祉グループ	
	電話	0178-43-9106 (直通)
	E-mail	shogaif@city.hachinohe.aomori.jp

■指定管理者による自己評価

評価	・関係法令や関係条例に基づき、設置目的に沿った施設運営に努めた。設備の維持管理・使用許可・各種相談については適宜実施された。障がい者の福祉増進に寄与する事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、企画したほとんどを中止とした。 ・自主事業については、感染症対策をとったうえで、日常業務に支障にならない範囲で実施した。自主事業を通じて就労移行支援の利用につながったケースがあった。
今後の目標	・関係法令などに基づき、中立・公正な事業運営に努め、さらなる利用者拡大に向け PR 活動を行う。老朽箇所などについては、日常点検で早期発見に努め、安心・安全に利用できるようにする。 ・管理運営に支障のない範囲で自主事業を実施する。活動により、利用する方々の就労意欲向上を図る。 ・障がいのある方々が尊厳を持って、地域生活が継続できるよう、総合的、継続的な相談支援を実施する。

■市（所管課）の総合評価

評 価	・各計画書、報告書等が遅滞なく提出され、適正な施設管理が行われていた。 ・障がい者やその家族、福祉団体等の利用機会の公平性を保ち、社会福祉活動の場として効果的な施設利用に努めていた。 ・利用者が安全で快適に施設を利用できるよう日常点検を実施しており、不具合や異常が確認された場合には速やかに関係機関へ報告し応急処置、修繕等の対応を行い、利用者の安全確保に努めていた。 ・新型コロナウイルス感染症に伴い、休館中においても館内各部屋にアルコール消毒を行ったほか、余暇活動や交流事業などについては、換気、検温、マスク着用等基本的な感染対策を徹底し、感染予防に努めていた。 ・相談支援事業に関して、各関係機関と連携を図りながら、利用者のニーズに合わせたサービスの提供に努めていた。
指摘事項	特になし

[評価：◎非常に良い、○良い、△やや悪い、×悪い、—評価不能]

■管理運営状況に係る個別評価

1 管理状況		
指標	評価	評価に対する説明
開館時間、休館日の運用	◎	相談支援事業の実施を休館日に行う等、サービスの向上に努めていた。
法令の遵守	○	関係法令を遵守していると認められた。
適正な人員配置	○	人員及び資格者を適正に配置していた。
従事者の労働環境確保	○	労働関係法が遵守されていた。
障がい者の雇用状況 ※募集時に提案していた場合（選定時加点）	○	市内に居住する障がい者で業務を遂行できる人材を雇用していた。
協働のまちづくりへの協力 ※募集時に提案していた場合（選定時加点）	○	はちのへクリーンパートナーとして登録し、施設周辺・外出先の環境整備活動に取り組んでいるが、令和4年度は新型コロナウイルス感染防止のため、1度のみの開催となった。
従事者の教育・研修	○	従事者の教育や研修が適切に行われていた。 （相談支援事業実施のための職員研修等）
緊急事態への対応	◎	状況の把握とともに、関係部署への報告、業者の手配等の対応が非常に良くできていた。（24時間体制で電話対応可）
文書の管理保存	○	文書取扱規程が整備されており、作成、受領した文書が鍵付き棚に適切に管理されていた。
報告書等の提出	○	事業計画、月例報告、事業報告書等が適切に提出されていた。
口座管理、経理の区分	○	指定管理業務に関する収支は専用口座で管理し、経理区分も整理されていた。
通帳、印鑑の管理	○	通帳と印鑑の管理が適切であった。

管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償	—	事例なし
付保する保険 ※協定書で指定管理者に保険加入を指定している場合	○	協定書で指定する保険に加入していた。
指定管理開始前における準備	—	前期（平成 26～30 年度）に引き続き、今期（令和元～5 年度）においても継続して指定管理者の指定を受けているので、対応なし。
管理終了後における引継ぎ	—	今期（令和元～5 年度）において継続して指定管理者の指定を受けているので、引継ぎなし。
重要事項の変更の届出	○	事業計画書、収支計画書の変更が速やかに提出されていた。
施設の使用許可及び条件	○	施設使用許可が施設設置条例に基づき適正に行われていた。（使用制限、条件の変更、入場拒否はなかった。）
施設、設備の保守管理	○	施設、設備の保守管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。（月 1 回）
備品の管理	○	備品の管理（点検や修繕等）が適切に行われていた。
清掃業務、警備業務、 その他必要な管理業務	○	清掃業務、警備業務、その他必要な管理業務が適切に行われていた。 ・清掃業務、警備業務は外部業者に委託していた。 ・業務日誌により実施状況を確認した。

2 運営状況

指標	評価	評価に対する説明
相談支援事業	—	相談者数は月平均で 72 人であり、新型コロナウイルス感染症流行により行動を控える方もおり、対応数は減少している。1 人で複数回利用することもあり、支援の件数としては月平均 79 件であった。 （4 年度延べ 945 件、3 年度延べ 1,065 件） 各種申請については、できるだけ、本人や家族ができるよう働きかけ、できない部分については、代行申請などの支援を行った。 ※地域住民や特定の利用者を対象とした施設であることから評価の対象外。
貸出し状況（貸館）	—	貸館件数 308 件（月平均 26 件） ※令和 3 年度 299 件 貸館人数 1,202 人（月平均 100 人） ※令和 3 年度 1,293 人 新型コロナウイルス感染症の流行による休館（4 月 1 日～4 月 11 日）や活動自粛により、貸館件数・人数共に前年より下回った。 ※地域住民や特定の利用者を対象とした施設であることから評価の対象外。
その他利用状況	—	余暇活動、交流事業などについては、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、対象者が重症化リスクの高い方々であることから、ほとんど中止としたが、感染者数が減少した時期には、感染対策を徹底し、健康体操や軽スポーツを含む交流会を開催した。 ※地域住民や特定の利用者を対象とした施設であることから評価の対象外。
自主事業	○	障がい者の自立や就労意欲の向上を図り、福祉就労や一般就労につなげる支援として、薪作りや竹細工の販売及び福祉施設内外の環境整備を行った。 （従事者の内訳） 身体障がい 2 人、精神障がい 3 人、知的障がい 1 人、手帳なし 2 人

その他の取組 (運営に関する工夫)	○	障がいのある方々の心身の健康増進に寄与するため、種々のプログラムを計画しているが、新型コロナウイルス感染症が流行していることと、対象者の方々が重症化リスクの高い方々であることから、ほとんど中止としたが、感染者数が減少した時期には、感染対策を徹底し、はちのへクリーンパートナー活動やレクリエーション活動を実施した。また、情報弱者になりえる利用者に対しては、電話や書類を活用し、最新の情報を提供するように努めていた。
----------------------	---	--

3 収支状況

指標	評価	評価に対する説明				
指定管理業務の収支状況	○	収支状況が当初の目標を達成した。				
		(単位：円)				
			項目	収支計画	収支実績	前年度実績
		収入 ①	指 定 管 理 料	14,060,000	14,060,000	14,060,000
			修 繕 料 繰 越 金	627,000	627,502	422,400
			自 主 事 業 繰 入 金	0	361,826	266,202
			計	14,687,000	15,049,328	14,748,602
		支出 ②	人 件 費	12,366,000	12,599,238	12,467,061
			維 持 管 理 経 費	1,637,000	745,408	749,569
			事業費・一般事務費	684,000	495,354	638,268
			計	14,687,000	13,840,000	13,854,898
		次年度修繕料繰越金③		0	847,502	627,502
収入－支出(①－②－③)		0	361,826	266,202		
自主事業の収支状況	○	収支状況は黒字であった。				
		収入 627,062 円 支出 265,236 円 収支 361,826 円				

4 運営に係る体制整備等の状況

指標	評価	評価に対する説明
利用者満足度の把握	○	「ご意見ボックス」の設置及びその結果を活かす仕組みができていた。(令和4年度投函なし)
施設概要(利用方法)の周知	○	施設の概要や利用方法等について、広報紙やホームページ等により積極的に周知活動をしていた。
苦情・要望等の受付体制	○	苦情・要望等の受付体制を明示し、周知していた。 ・ご意見ボックスを設置していた。
苦情・要望等への対応	—	苦情・要望等はなかった。
個人情報の保護	○	個人情報保護の規程が整備され、遵守されていた。(運用実績なし)
情報公開	○	情報公開の規程が整備され、遵守されていた。(運用実績なし)
秘密保持義務	○	秘密保持義務が守られ、適切に対応されていた。
環境への配慮	○	環境に配慮した物品購入、省エネルギーへの取組、リサイクルの推進等が適切に行われていた。
障がい者への配慮	○	障がい者に配慮した案内(声かけや必要に応じた誘導等)やイベント開催(障がい者の自立のための行事や各種講習会等)が適切に行われていた。

■他の事業評価実施状況

1 セルフモニタリング	
	実施状況
自主点検状況	- 施設や設備の日常点検を実施していた。 - 施設や設備に異常や不具合があれば速やかに修繕等を行った。

2 定期モニタリング	
	実施状況
定期報告状況	月例報告は遅滞なく提出され、内容も適切であった。

3 随時モニタリング				
実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	8回	5月26日	担当	施設状況確認
		6月15日	担当	施設状況確認
		6月29日	GL・担当	施設状況確認
		11月21日	担当	施設状況確認
		12月6日	担当	施設状況確認
		1月24日	担当	施設状況確認
		2月27日	担当	施設状況確認
		3月1日	GL・担当	施設状況確認
	実施結果			
	施設の管理運営について適切に行われているか及び設備の不備等がないかどうかを確認した。			

※GL：グループリーダー